

今月の相談事例(平成 31 年 1 月)

顧問先社長 経営幹部各位

〒428-0006 静岡県島田市牛尾 1158-3
三浦労務経営事務所
特定社会保険労務士 三浦 茂
TEL 0547-45-5811/FAX 0547-45-5821
URL <http://www.masterslink.jp/sr/miura/>

【相談内容】

従業員で予定をよく忘れてしまい、周囲に迷惑を掛けている子がいます。本人は注意される都度気を付けますといいますが、改善される気配がありません。この子はよく遅刻もするのですが、これは最近とり沙汰されている「大人の発達障害」ではないかと思いました。

「大人の発達障害」とはどのようなものですか？また会社として対応することはありますか？

【アドバイス】

1. 発達障害とは

発達障害は脳の一部に発達障害があって出生したことにより、社会生活を送ることに支障が現れる障害です。

DSM-5という米国発行の『精神疾患の分類と診断の手引』があります。日本の精神医学界でも用い、厚生年金や国民年金の障害給付についてもDSM-5に基づいた障害認定がされています。

DSM-5には、「1 神経発達症群/神経発達障害群」という分類があります。このカテゴリーには、「知的能力障害群」「コミュニケーション症群/コミュニケーション障害群」「自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害」「注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害」「限局性学習症/限局性学習障害」「運動症群/運動障害群」「他の神経発達症群/神経発達障害群」があり、いわゆる発達障害は、「自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害」「注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害」「限局性学習症/限局性学習障害」を指しています。

2. 障害の内容

(1) 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害

通称「アスペルガー」と呼ばれている障害で、「対人関係の障害」「コミュニケーションの障害」「パターン化した興味や活動」の3つの特徴を持ち、次のようなことが観察されます。

- ・おしゃべり、理屈っぽい、話す話題が狭い
- ・相手のコメントへの反応は乏しい
- ・強引でカッとなりやすい
- ・冗談が通じない、理解できていない
- ・言葉を字義どおりに捉える
- ・対人関係に消極的
- ・表情が乏しい
- ・頼まれたら断れない
- ・気持ちのやりとりができない
- ・周囲への関心が薄い
- ・人前で話すのが苦手でも、語彙が豊富で文章が得意な人もいる
- ・自分勝手に判断して事を進めることがある
- ・注意・助言しても反応がない
- ・自分のルールや決まりを変えない
- ・想像力が乏しい
- ・変更することを好まない
- ・臨機応変な対応や応用を苦手とする

(2) 注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害

通称「ADHD」と呼ばれている障害で、「不注意」「多動性」「衝動性」という3つの症状の特徴を持ち、次のようなことが観察されます。

- ・落ち着きがない
- ・衝動性が高く、よく考えないで行動や発言をしてしまう
- ・注意力が散漫で、うっかりミスや物忘れが頻発

- ・話をするとき、近づき過ぎる
- ・遠慮のない言動を平気です
- ・スケジュール管理や段取りができない
- ・整理整頓ができない
- ・人が多い場所では落ち着かない
- ・仕事をため込んで、忙しそうにしている

(3) 限局性学習症/限局性学習障害

通称「学習障害」と呼ばれている障害で、聞く・話す・読む・書く・計算・推論などのうち、特定の能力の習得や使用に著しい困難がある特徴を持ち、次のようなことが観察されます。

- ・一行読み飛ばす、文章中の単語の区切りがわからない、桁を間違える、など
- ・ひらがなや漢字などの書き間違いが多い
- ・簡単な繰り上がりの計算ができない
- ・言われたことをよく聞き忘れる
- ・文章を読めても内容が理解できていない
- ・立体的な構図が把握できない

3. 大人の発達障害

次のような人がいました。20歳を過ぎ、結婚していて子供もいる母親が、床に紙くずが落ちていても拾い上げようとしません。落ちていることは認識しているのですが、片付けて綺麗にする情動が起こらないのです。家の中の状態を伺うと、散らかり放題だが、本人は全く気にならないと言います。片づけは夫がしているようです。

学習障害は、学校生活で判明し、相応の指導を受け、本人も苦手領域として大概自覚していますので、その領域が問われる仕事等には就かないようにしています。

ADHDは、生きづらさを自覚していますので、チェック表やスケジュール管理表、To-Doリストなどを工夫したり、歯磨きのように整理整頓を習慣化したり、「急いで事はし損じる」などの人生訓を大切にしたりして、社会的な適応を図る努力をしています。しかし、そのような指導や試練を経験していない場合、会社や回りの人が迷惑を被る事態になります。

アスペルガーは、現在の学校生活ではコミュニケーション能力が成績に影響することは少なく、机上の知識や思考が問われるものであるため、勉強に努め、成績や学歴を得ていることが多いです。しかし、人の心情を介在した人間関係の形成機会を回避してきているため、社会人になって組織の中で仕事をすることができなかつたり、人間関係を壊したりして、転職を繰り返したり、就業できなかつたりしています。

4. 会社の対応

(1) 専門医の診断を仰ぐ

「困った！」と思ったら、就業規則に基づき精神科医を受診し、診断書や指導書の提出を指示しましょう。

ADHDの人は、生きづらさを感じていますので、受診は素直に応じるでしょう。

アスペルガーの人は、プライドが高く、人の心情を汲まず、持論を押し通す傾向が強いので、口頭の指示には応じないかもしれません。文書で伝えるのが良いでしょう。

(2) 医師による診断に基づく

医師の診断に基づき就業上の条件を整えます。

診断書には、障害の程度を「重度」「中度」「軽度」と表記され、就業の可否や就業上の制約事項が示されますので、それに基づいた配置と仕事の指示を検討します。

(3) 職場で情報を共有する

就業上の制約事項や配置等について職場で情報を共有します。無理な仕事の要求や指示によって障害者の精神的な苦痛を避け、職場適応を促進させるためです。

(4) 職場での対応要領を作成、実行する

指示は口頭ではなく、メモ書きでも構わないので文書で渡す。行動をステップにして、単純化した具体的行動を明示する。明示したことを理解したかどうかを確認するなど、本人の特性にあった対応要領にしていきます。